

日本鐵鋼協會記事

編輯委員會 (昭和9年度第7回) 昭和9年9月25日(火)午後5時開會

出席者 吉川理事、委員 田中清治君、山田良之助君、蒔田宗次君、三島徳七君、鹽澤正一君

協議事項 1. 鐵と鋼第20年第11號上掲論文原稿決定、第20年第12號上掲原稿豫定

2. 第13回講演並見學大會に關する件
3. 其他會務に關する件、以上審議し午後8時散會す

鐵と鋼第20年第11號上掲論文

- 1. 含珪酸貧鐵鐵の濕式選鐵に關する研究(第1報) 井上 克己
- 2. 熔鐵處にて低炭素銑製造法考察 谷口 光平
- 3. クロム鋼の冷却條件による變態點及び顯微鏡組織の變化
村上武次郎、岸本 浩

表彰 本會正會員 株式會社昭和製鋼所取締役銑鐵部長工學博士梅根常三郎君へ去る昭和9年10月8日大連市に於て香村賞牌を贈呈せり(卷頭參照)

第3回香村賞牌受領者推薦理由書
昭和製鋼所 工學博士 梅根常三郎君
理由

同氏は明治44年京都帝國大學理工科大學探鐵冶金科卒業後直に八幡製鐵所に就職、大正8年滿鐵鞍山製鐵所創設に際し聘せられ同所技師として勤務し同9年1月より同所原料の根本問題たる貧鐵鐵處理研究を始むるや君は之が主斑となり各種の研究をなし同12年末に至り漸く完成し鞍山今日の選鐵工場建設の基礎をなせり。

抑も鞍山の貧鐵は其の含鐵分漸く37%にして夾雜物は殆ど珪酸

なり故に其の儘原料とすれば技術的には可能なるも經濟的には採算不能にして是非とも選鐵せざれば數億噸の貧鐵開發の途なかりしなり。嘗て此の貧鐵は鐵粒極めて微細且つ非常に硬堅にして加ふるに大部分は赤鐵鐵の形として存在するを以て普通の選鐵方法を以てしては處理不可能なりしを同君は數年にわたり磁化焙燒に就き研究をなし各種の困難に逢着せるもよくこれを克服し今日の基礎をなしたり。

此方法たるや未だ世界に其の類類なくよく之を完成せるは滿洲に散在する數億噸の貧鐵を利用し得るのみならず製鐵資源に乏しき日本にとりて最も必要なる問題を解決せるものにて斯界に貢獻する所實に大なりと謂はざるべからず。

以上は同氏苦心經營の寄與する所特に顯著なるに鑑み香村賞牌受領者たるの資格充分なるものと認む。

第13回日本鐵鋼協會第7回滿洲冶金學會聯合講演大會狀況電信 去る10月10日長谷川實行副委員長より大連に於ける豫定行事盛大に終始の旨電信ありたり。

日本工學會理事長工學博士男爵斯波忠三郎閣下薨去 9月29日自邸に於て狭心症に倒れ10月3日午前8時7分遂に逝去されたるに付き10月4日午前10時斯波邸に於て日本工學會臨時評議員會及同社員總會を聯合にて開催、本會々長は大會に出向中なる故渡邊理事會長代理として決議に参加す、本會よりは花輪並用詞を呈し渡邊理事葬儀委員に列し厚く哀悼の意を表せり。

役員逝去 10月3日午後10時30分本會評議員工學博士今岡純一郎君は病氣中の處藥石効無く永眠されたり。

新入會者氏名

居所又は宛名先	勤務先又は職業	會員別	入會者氏名	紹介者
杉並區中通町一〇九	工學士 中島飛行機東京工場	正	大坪 龍 夫君	長澤雄次、武内武夫
麴町區丸ノ内二ノ二丸ビル六階六一七		〃	關東鋼材販賣組合	蒔田宗次、村松橋太郎
八幡市高見町二丁目社宅	工學士 八幡製鐵所銑鐵部	〃	安田 勇 治君	山岡武、村松橋太郎
尼ヶ崎市昭和南通七ノ一七九	高石製鋼所技師長	准	大崎 善三郎君	村松橋太郎
仙臺市片平町東北帝國大學金屬材料研究所	工學士	〃	ハツタ 篤 敬君	村上武次郎
大阪府大正區二ノ八四 徳島屋方	中山製鋼所	〃	湊 博君	村松橋太郎
鞍山市北二條町六八ノ三	工學士 昭和製鋼所銑鐵工場	〃	堤 英三郎君	淺 田 讓
仙臺市靈屋下四三 高橋由衛方	東北帝大金、工、學生	〃	宮内 弘平君	錦 織 清 治
大阪市大正區南恩賀島町大阪製鐵株式會社	大阪製鐵株式會社工務係	〃	郡 司 桂一君	佐野半兵衛
大森區田園調布3ノ50ノ1(田園調布119)	早稻田大學理工部探採學生	〃	市川 宗成君	鹽澤正一
岩手縣釜石町日本製鐵會社棧橋社宅	釜石製鐵所壓延課	〃	齋藤 信男君	中 鉢 三 郎
岩手縣釜石町鈴子ホテル内	釜石製鐵所壓延課	〃	安藤 富次君	村 井 信 平
大森區堤方町昭和製作所内		〃	石 田 仁君	池 田 正 二
朝鮮黃海道兼二浦製鐵所社宅	日本製鐵兼二浦製鐵所	〃	國 武 房 夫君	田 畑 農 夫
芝區三田功運町一八古川輝利方	東京帝大、工、冶學生	〃	今 井 修 之君	田 中 清 治
滿洲國奉天造兵所技術課	工學士	〃	淺 原 隆 三君	藤 井 寬
神戸市灘區篠原本町三ノ八一七	川崎車輛會社製鋼部	〃	阪 口 好 雄君	谷 山 巖
滿洲國鞍山北三條町七〇ノ一九	昭和製鋼所銑鐵部	〃	川 畑 庄 三郎君	淺 田 讓

會員死亡者

正會員 工學博士 孕石 元照君 昭和9年9月25日	正會員 工學博士 男爵斯波忠三郎君 昭和9年10月3日
正會員 本會評議員 工學博士 今岡純一郎君 昭和9年10月3日	正會員 馬庭 律夫君 昭和9年9月28日 (10月15日受付)
以上4氏の御逝去は洵に痛惜の至りなり茲に謹んで弔意を表す	